

井上 魚



室井 滋





オキナ
の
魚

室井
滋

著者紹介

室井 滋（むろい・しげる）

富山県出身、早稲田大学社会科学部中退。

ミンジの独身。

今は健康だが時々、血圧が低い。

一級小型船舶操縦士の免許が自慢。

最近、地震雲を見て大きめの地震を三連チャ

ンで当てた。これも自慢。

著書に『むかつくぜ！』がある。

職業女優。

キトキトの魚

一九九三年三月二三日 第一刷発行

一九九三年四月六日 第三刷発行

著者——室井 滋

発行者——吉森規子

発行所——株式会社マガジンハウス

東京都中央区銀座3-13-10 千一〇四-〇三

電話 書籍販売部 〇三（三五四五）七一三〇

書籍編集部 〇三（三五四五）七〇三〇

印刷所——三松堂印刷

製本所——積信堂

© 1993 Shigeru Muroi Printed in Japan

ISBN4-8387-0368-6 C0095

落丁本・乱丁本は小社書籍販売部宛にお送り下さい。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

定価はカバーと帯に表示してあります。

はじめに

私の田舎、富山の言葉で「キトキト」というのがあります。

キトキトは、キョトキョトじゃあないし、キビキビでもなく、ギンギンやギトギトとも違う言葉です。

田舎の人は、たとえば元気に走り回っている子供を見て、

「本当にキトキトの子やわ」

と言ったり、なかなか寝つかない子供を見て、

「まあこの子、キトキトの目しとる」

と言ったりします。

また、キトキトは子供以外の大人や生き物にもよく使
い、町内会の運動会で妙に張り切ってるおじちゃんを見て、
「どうされたんやろう、室井さん家のお父さん今日はキ
トキトになってるね」

なんて言ったり、魚屋さんへ行つて、

「キトキトの魚、ちょうだいよ」

と、注文したりするのです。

キトキトは、やけに元気で、それでいてけなげ、異様に張り切つて、ピチピチと生きがよい状態のことを言

うのですが、かといってそれは、たとえばハツチャキのような派手な言葉ではありません。

そう……どちらかというと、普段とても地味なものが、このうえもなくイキイキしている様子というか、地味なものがないげに頑張っているカンジ……そう、そういう言葉なんです。

私はこの「キトキト」にとっても懂れているので、私自身も、そして私のこの本も、とびきりの「キトキトの魚」みたいになりたいなあ、という気持ちで書きました。

室井 滋

目次

はじめに	1
満開少女	8
父親自慢	20
とんだ大晦日	29
赤目	40
パフォーマンス	48
プレゼントその①	55
プレゼントその②	61
ブツを消せ!	66
純情ラブホテル	80
花嫁のベッド	86
おませ道	95
富士山	104

私、感じるんです

眠れない朝

可愛いあの子は誰のもの その宅気になるアイツ

可愛いあの子は誰のもの その忒親切

可愛いあの子は誰のもの その参身の証し

Hカード

アカスリ

曜日音痴

ゴキブリ

シワヨセの黄色いハンカチ

捨てて逃げてよ 黒の巻

捨てて逃げてよ 白の巻

ツインズ

あとがき

207 200 195 184 177 170 160 150 145 133 127 122 116 110

装丁

日比野克彦

キトキトの魚

満開少女

ひとりっ子といえば、昔から過保護っ子の代名詞みたいなもので、その印象ときたら「自意識過剰な嫌なガキ」、または「しこたま手のかかるわがまま者」と、いつも相場が決まっている。

実は私も堂々のひとりっ子なのだけれど、やはり例に漏れることなく、子供の頃は、「本当にシゲちゃんにはまいる。やっぱりダメネひとりっ子は」と、よく周囲の大人から言われたくちだった。

その頃の私は、そんな陰口を聞かされた時に、「私のいったいどこがわがままだっていうの?!」と、とても憤慨したものだ。が、今になって、いろんなことを思い出すたび、やっぱりかなりのものだったなあと思ふのだ。

おませだったあの夏の日、私はまた、自意識過剰の絶頂期をも迎えていた。

フリルのワンピースを日に二度着替えたり小さな鏡を収集したり、また、授業中先生に指された時の「はいッ」という返事の仕方をいろんな風に研究したりして私は日々を過ごしていた。

自惚^{うぬぼ}れることに熱中していた私は、『りぼん』と『なかよし』という少女マンガをこよなく愛し、なかでも、その中に時々登場する病弱な美少女にひどく憧れていた。

この美少女というのが、またちょっとすごい。体が弱いのみならず、とても貧しい家の子で、物語が進むうちに、お母さんを飛行機事故で亡くしたり、お父さんをガンで亡くしたりして不幸のどん底に落ちるのだ。おまけに彼女の元へ、どこからともなく出生の秘密というヤツを握るおじさんがやってきて、実は彼女はどこかの財閥の娘で、子供の頃に病院で取り違え事件に巻き込まれ行方知れずになっていたと告げたりする。やがて、本当のお父さんとお母さんの元に彼女は引き取られるのだが、その幸せも束の間、彼女の病状が悪化し、最後には失明までもして息絶える、というストーリー。

私は病弱小公女ものにとっても弱くて、このドラマ展開に心底没頭することができた。そしてさらには、自意識の強すぎる私は少しずつこの少女を自分の中に投影し始め、

実は私もこの家の子ではないのでは?! と疑ったり、もしももしも、お父さんが病氣や事故で死んでしまったら……なんて夜な夜な想像し、枕に涙したりして、とにかくとても忙しかった。

そんなある日のことだ。

友達せいちの宮崎生子が、とんでもない告白を私にしてきた。

あれは図工の時間だった。私と宮崎生子は校庭の片隅で、ポプラ並木の写生をしていた。

しり取り歌をしながら、とてもとても平和に絵を描いていたのだが、ポプラ並木の横の道を、一台の救急車がけたたましく走り抜けていった時、

「あのさ、シゲちゃん」

宮崎生子は突然歌うのをやめて、声を潜ひそめて話しかけてきた。

「あのさ、まだまだ先のことなんやけど……中学行ったらさ……私……私……名前変わるけど、シゲちゃん、それでも私と友達でおってね」

彼女の神妙な様子にすぐに反応して、私もヒソヒソ声になって、

「ひょっとして、生子ちゃん家ち、お父さんとお母さん離婚されるんやないの?! それで

生子ちゃん、お母さんの側について、一緒に家を出るつもりなんやろ……」

とても通俗的だった私は、これは絶対だ！　と思つて彼女に切り返してみた。

しかしそれには彼女は、クスツと笑つて首を横に振るだけだった。

「なあん、違う、違うよそなん。うちは二人共、すごい仲良しやから。私ね、苗字が変わるんじゃないくて、下の名前が……。シゲちゃん、私、本当は宮崎生子じゃなくて、宮崎薫つていうんよ」

「えっ?!……薫……う、嘘……何それ」

「私の生子つていう名前、生きる子とか、生まれる子つて書くやろ。何でそんな名前に替えたと思う?……それはね、私が一度、死んだからなんよ」

「えっ!!　シ、死んだつて……」

私は、想像を絶する彼女の言葉に、息が詰まりそうになった。

「私ね、幼稚園の入園式の日、私ん家の前の道路に飛び出して、そこを通つた救急車に跳ねられたん。体がポーんって吹っ飛んで、強く地面に叩きつけられ、私は氣を失つたらしいん。それで、すぐに私を跳ねた救急車で病院に運ばれたんだけど、途中、とても危ない状態になって、一度は呼吸なんかもあやしくなつて心臓もしばらく止まつたんや

って母さん言うとなつたわ。でも、お医者さんに診てもらうのが早くて、なんとか助かったんやつてさ。それで、私の名前やけど、薫から生子にしたんよ。だって、入園式に、しかも救急車になんてねえ……。もういっぺん生まれ直した気分で縁起担いでつていうんかなー……。まあ、中学行くまでは宮崎生子にしたんだつて。……。でもね、戸籍までは変えれんから、私、中学からは宮崎薫に戻るからね。ヨロシクながいちゃシゲちゃん!!」

宮崎薫はニコニコして、ヨロシクながいちゃシゲちゃん! と言ったが、私は、『なかよし』でも『りぼん』でも読んだことがないこのストーリーに強いショックを受け、口がきけぬ状態になってしまい、茫然として首を垂れ地面の一点を見つめていた。

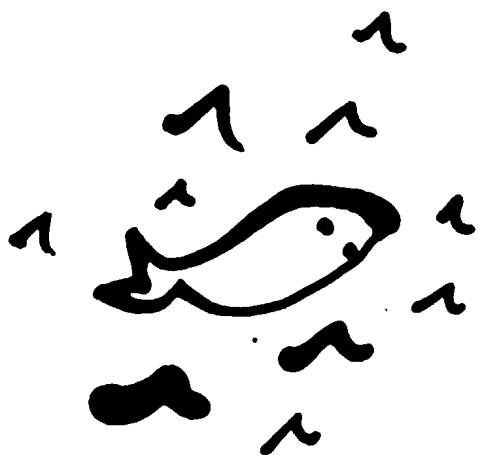
すると、何をどう誤解したか、こんな私の様子に宮崎薫は、

「どうしたん、シゲちゃん。大丈夫? 気持ち悪くなつたんやないのー。あれー顔色悪いちゃ」

そう言つて、せつせと私の背中をさすり始めた。

「ゴ、ゴメン……。ちよつと、く、苦しいがー、なんか急に心臓が……」

「えつ、シゲちゃん、ひよつとして心臓悪いん?」



私は、あまり派手な話にびっくりして心臓がドキドキしちゃったよ、と言いたかった。だのに、気のいい宮崎生子、いや薫は、私のうずくまりようを心臓に何か問題があるのでは?! と思つて、つい口にしたのだった。

「そ、そうなん。こんな話、誰にもできんけど、私ね、実は心臓弁膜症なんよ」

私はとつさに、自分が知っているたった一つの心臓病の名前をあげていた。

「生子ちゃんにしかこの秘密は言えんけど、心臓弁膜症は命に関わるすごい病気なんよ。だから、私、本当は安静にしたらんとダメなんやけど……。でも私、生まれつき、この病気と背中合わせに生きてきたから、だから、ちよつと我慢すれば大丈夫、すぐに治るからさあ……へへへへへ」

宮崎薫の顔色はみるみる曇り、彼女は私の嘘っぱちに、

「もしかして、シゲちゃん、長生きできんがやないの?!」

と、目に涙さえ浮かべてくれた。

自分でも、何故あの時、あんな嘘を言ってしまったのか、本当のところはよくわからない。